

1. 地域の特徴

ニセコ町は羊蹄山、ニセコアンヌプリ、昆布岳に囲まれ、その中央を清流日本一の尻別川が流れる自然豊かな景観が魅力です。人口は約5,000人ですが、国内外からパウダースノーを求め、年間約170万人の観光客が訪れます。最近では移住者や企業進出も多く、ここ20年間で一貫して人口が増加傾向にあります。

【人口：5,074人（2020国勢調査）、面積：197.1km²】

町政では、『住民参加』と『情報共有』を町のあらゆる仕事を進める上での基本ルールとした「まちづくり基本条例」を2001年に全国で初めて制定しました。この条例に基づき、町民が自ら考え行動する「真の住民自治」を目指すまちづくりを現在も続けています。

また、良好な景観と環境を守るため、「景観条例」、「水道水源保護条例」、「地下水保全条例」、「再生可能エネルギー事業の適正な促進に関する条例」を町独自に設け、包括的に秩序ある開発への誘導を進めています。



2. 応募のきっかけ

小規模自治体でありながら、人口の流動性が高いニセコ町において、町民同士の関係性は概ね良好であるものの、自治会の高齢化、生活習慣の違いによる自治会未加入者の増加、助け合いの精神の低下傾向が見られるようになってきました。

ニセコ町が長年にわたって進めてきた『住民参加』と『情報共有』のまちづくりと、総合計画の基本理念である「環境創造都市」や「環境モデル都市」実現のために取り組んできたCO2削減や域内経済循環の取組を“環境・社会・経済”の観点からもう一段階磨き上げ、世界のベストプラクティスモデルを構築しようと考えていました。

このニセコ町が目指す地域課題解決への方針がSDGsの理念と一致したため、SDGs未来都市及び自治体SDGsモデル事業の応募にチャレンジすることにしました。

同時解決を目指す地域課題

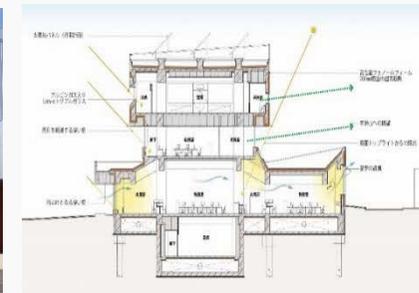
- 環境**
 - CO2排出量86%削減
 - 開発による環境負荷増
 - 景観保全・水環境保全
- 社会**
 - 住宅不足・住みたくても住めない
 - 将来生活に不安な高齢者
 - 地域コミュニティの低下・自治会加入率の低下
- 経済**
 - 域外流出の防止・域内経済環境の構築
 - 労働力不足・地元雇用困難
 - 地元企業の差別化・存続
 - 地元投資・資産形成の活性化

3. 取組の内容と成果

ニセコ町は観光業と農業という2大産業を下支えしている環境を住民自らが守り、再生可能エネルギーを柱とする資源と、地域を豊かにする経済が循環し、住民自治に支えられた住むことが誇りに思える自治のまち「サステナブルタウンニセコ」の構築を目指し、次の取組を進めています。

①環境配慮型象徴施設『役場新庁舎』

- ✓ 全国トップレベルの超省エネ基準の躯体性能
 - ⇒ UA値0.18の環境配慮型施設
 - ⇒ 木製トリプルサッシ、高性能断熱材を全面採用
- ✓ ステークホルダーとの連携
 - ⇒ 一般社団法人クラブヴォーバンの意見を反映
- ✓ まちづくり町民講座等の実施
 - ⇒ ワークショップやアンケートにより町民意見を反映
- ✓ 燃料費の削減
 - ⇒ 当初予算の1/2削減、旧庁舎と比べると1㎡あたりのCO2排出量が1/5削減



②NISEKO生活・モデル地区『ニセコミライ』（自治体SDGsモデル事業）

- ✓ 官民連携のまちづくり会社「(株)ニセコまち」の設立
 - ⇒ ニセコ町、町内事業者、専門知識を有する事業者の出資
- ✓ 市街地周辺に人口の約1割規模の住宅地を開発
 - ⇒ 環境・経済・社会の3つを基軸に地域における課題解決型の先進モデルを構築
 - ⇒ 住む人にとって安心・安全・快適の持続可能なまちづくりを実現
- ✓ 脱炭素モデルの推進
 - ⇒ 超高気密・高断熱の集合住宅を建設
 - ⇒ 電熱供給システムによる地域エネルギーの利活用



地域課題解決の先進モデルの形成



4. 選定されてよかったこと

- ✓ 「SDGs未来都市」の選定による企業提案・パートナーシップの拡充
 - ⇒これまで地域内で解決できなかった地域課題への挑戦・実証実験の開始
- ✓ 約30年間コツコツと取り組んできたニセコスタイルの情報発信
 - ⇒行政視察、シンポジウム登壇の機会増に伴う情報交換の場創出
- ✓ SDGsの横展開、職員の意識醸成
 - ⇒UNWTOのベスト・ツーリズム・ビレッジやグリーンデスティネーションズのサステイナブルツーリズムTOP100選を獲得
- ✓ SDGs本の寄贈、ニセコ版SDGs本の町民全戸配布
 - ⇒総合的学習の時間など学校教育活動におけるSDGs学習の導入
 - ⇒町内企業のSDGs関心向上
- ✓ 企業版ふるさと納税のPR促進
 - ⇒特にSDGs推進事業経費への寄付件数の増加



5. 困難やつまづきなど苦労したこと及びそれをどのように克服したか

【困難・苦労】

- ✓ 人的リソース不足
 - ⇒SDGs未来都市の選定により、教育旅行へのSDGs講話依頼が殺到（R3:計36団体2,287人）
- ✓ 町民へのSDGs浸透
 - ⇒SDGs本を全戸配布したものの、重点事業をわかりやすく記載した構成であるため、具体的なニセコ町の取組と17のゴールの関連付けが浸透しなかった

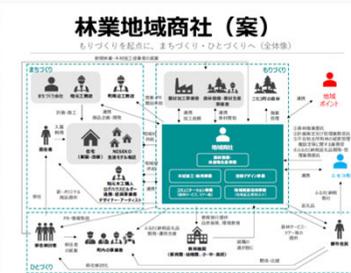
【克服】

- ✓ ニセコ町SDGs推進員制度を構築
 - ⇒SDGs推進員を設置し、推進員を派遣することにより対応
 - ⇒第1号は元地域おこし協力隊（SDGs担当）に委嘱
- ✓ SDGsパンフレットの作成、広報ニセコ「みんなでSDGs」ページを創設、もっと知りたいことしの仕事のSDGs掲載追加
 - ⇒全戸配布により、SDGsやニセコ町の取組が浸透しつつある

6. 今後の展開

① 2050年までのカーボンニュートラルを実現

- ✓ 第2の行政機関である(株)ニセコまちがCO2削減の取組を促進
 - ⇒豪雪対応型の太陽光発電、EVカーシェア、HEMS等を導入！
- ✓ 第3の行政機関として地域林業商社を設立
 - ⇒地域林業商社がCO2吸収の取組を展開！
- ✓ 行政も徹底した超省エネ建築・改修や再エネを普及促進
 - ⇒トータルランニングコストの削減を条例制定やインセンティブ導入で後押し！



② 旅納税

- ✓ 旅先ですぐに使える電子通貨“NISEKO eumo” = “共感コミュニティ通貨”を付与
 - ⇒通常のふるさと納税と同じく税金控除が受けられ、返礼品としてニセコ町の加盟店で利用可能！
 - ⇒地域住民との交流を促し、町内外のつながりや共感をより増やす仕組み！
- ✓ 循環を促す仕組みとしてチャージしてから3か月という利用期限
 - ⇒使い切れずに期限が切れたポイントは全額ニセコ町の子どものチャレンジのために活用！



7. 他地域への展開等

- ✓ ニセコ町及び(株)ニセコまちの取組は、新聞やメディアで取り上げられる事例も多く、シンポジウム等の登壇や視察受入も非常に多い。先駆的な取組を行う団体の視察も多いため、情報交換も兼ねて幅広く交流を深めていきたい。
- ✓ (株)ニセコまちが包括連携を結んでいる企業とコンソーシアムを結成し、ニセコミライにおける技術提供を行うことも検討中。

8. その他

「二セコ町らしい」まちの構築

環境と社会と経済の
相乗効果



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
世界を変えるための17の目標



持続可能な開発目標

2015年9月の国連サミットで、全会一致採択された「持続可能な開発のための2030行動計画」に記載された、2016年から2030年までの国際目標のこと。持続可能な世界を実現するための17のゴール(目標)と関連する169のターゲットから構成され、地球上の誰ひとりとして取り残さないことを誓っています。

この目標は、実は日々の私たちの暮らしに密接に関連しており、ローカルな地域課題の解決に貢献し、持続可能なまちづくりを推進するものです。



二セコ町の
環境・SDGsの取組み

二セコ町が目指す持続可能なまち

